学習活動進行台本

【導入】

今日は、前回のような楽器やブーメランを使っているアボリジニの人たちが、実際どのような人たちなのか、もう少し具体的に迫ってみたいと思います。

今から私がみんなに８枚の写真を見せるので、一枚一枚よく観察して、それらの写真を通してみんなでアボリジニの人々を訪ねてみましょう。

これから見せる写真は、黒須章子さんという日本人の方がオーストラリアに行って、アボリジニを訪ねたときに撮影したものです。みんなも、自分が実際に黒須さんと一緒にオーストラリアに行ってアボリジニに会いに行ったつもりになって、アボリジニとはどんな人たちなのか、どんな所に住んでいて、どんな暮らしをしているのか、注意して観察してください。

【１枚目の写真を提示する】

ここは、オーストラリアの都市から数時間車に乗って、やっとたどり着いたところです。さて、この写真には何が見えますか。周りには何があるでしょうか。

《発見した点を発表》

そう、見渡す限りの砂漠ですね。

では、ここで車を降りて、アボリジニの人々が住んでいるところまで歩いていきましょう。

【２枚目の写真を提示する】

砂漠の道を歩いていくと、突然みんなの足が止まりました。

何かを発見したようですね。さて、この写真には何が見えますか？

この跡はなんだろう。みんなは、これが何の跡かわかりますか？

≪みんな自分の考えを発表≫

いろんな考えが出ましたね。では、この跡を辿っていってみましょう…

【３枚目の写真を提示する】

こんな木にたどり着きました。木の下には一人の女性がいます。この人が何をしているのか、みなさんはわかりますか？

《意見の発表》

そうですね。いろいろ考えらますね。では、近づいて見せてもらいましょう。

【４枚目の写真を提示する】

さて、この写真には何が見えますか？

≪意見の発表≫

枝の中が空洞になっていて、その中に何か白いものが見えますね。さて、みんなはこれが何かわかりますか。

【５枚目の写真を提示する】

そうです。これは芋虫です。あの女の人は、これをとっていたのですね。
みんなの知っている芋虫とはちょっと違うようですね。どんなところが違いますか。
色とか形とか大きさとか比べてみて、どうですか。
《意見を発表》
さて、アボリジニの人々は、これを何に使うのでしょうか。みんなはわかりますか。
《意見を発表》
いろいろ面白い意見がでましたね。でも正解は、後のお楽しみにとっておきましょう。

さて、また少し歩いていくと、別の女の人がいました。

【６枚目の写真を提示する】

さて、この女の人はいったい何をしているのでしょうか。
≪意見を発表≫
どうやら木の根本に穴を掘っているようですね。ずいぶん深く掘っています。この人は、何かを探しているようです。なにがいるのかな。何を探しているのかな。

では、近寄ってバケツの中を見てみましょう。
この女性が探していたものは…これです！

【７枚目の写真を提示】

みんなはこれがなんだかわかりますか？

≪意見を発表≫

実はこれ、蟻なのです。この蟻は「蜜蟻（ミツアリ）」といって、オーストらリアの砂漠地帯に住む特殊な蟻です。他の昆虫から蜜を集め、それをお腹の中の袋に貯蔵します。そのため、お腹がこのように大きくなるんです。中には蜜がいっぱい詰まっています。この蜜はとっても甘くて美味しいんですよ。アボリジニの人たちにとっては、これが一番のスイーツなのです。蟻が集めた蜜というと驚くかもしれないけれども、実は私たちがふだん食べている蜂蜜（ハニー）と同じなのです。蟻の蜜は、蜂蜜に負けないくらい上品な甘さで、ほっぺたが落ちるほどおいしいそうです。

【８枚目の写真を提示する】

そのうちアボリジニの人たちは、焚き火を囲んで輪になって座りました。そうです、遠く日本からやってきた私たちのために、歓迎会を開いてくれたのです。

さっきの芋虫や蜜蟻は、私たちにふるまってくれるご馳走だったのです。私たちのために、一生懸命集めてくれたのです。そのご馳走は、私たちにとっては初めて口にするものでしたが、温かい心のこもった、とってもおいしいご馳走でした。

私たちも、お客様が来たときにはお店に行って美味しい肉や新鮮な野菜を買ってきて、精一杯のおもてなしをしますよね。それと同じ様に、私たちに精一杯のおもてなしをしてくれたのです。アボリジニの人々の住む砂漠地帯にはデパートやスーパーがありませんから、自分たちの暮らしている自然を有効に利用して一生懸命材料を集めて、私たちのために最高のご馳走を作ってくれたのです。私たちは、とても感激しました。

【最後のまとめ】
ということで、すべての写真を見終わりました。
さてみなさん、アボリジニの人々って、どんな人たちでしたか？みんなはどんな感想をもちましたか？一人一人発表してください。
《感想を発表》
そうですね。私たちとは肌の色や見かけ等がどんなに違っても、また、私たちとは全く異なった環境や社会の中で生活をしていても、「自分を訪ねてきてくれたお客様には精一杯のおもてなしをしたい」と思う心は同じなのだということが、よくわかりました。

【体験タイム①――アボリジニ楽器の演奏】
ではここで、みんなでアボリジニの人々みたいに輪になって、床に座ってみましょう！
《アボリジニ音楽のＣＤをかけて、ディジュリドウとクラッパーを子供たちに渡す》
みんなアボリジニになったつもりで、前回やったように、この音楽のリズムに合わせて、みんなで演奏してみましょう。楽器は交代で使います。楽器のない人は手拍子で合わせてください。

【体験タイム②――虫を食べる】
《ＣＤはかけたまま楽器を回収して…》
では続いて食事です。
まずは芋虫からです！と言いたいのですが、オーストラリアの芋虫は日本では見つからなかったので、今日は代わりにイナゴを食べてみます。
《佃煮のイナゴを少しずつ配って食べてみる：その瞬間子供たちは大騒ぎになり、すぐに食べる子、ためらいながらちょっとだけ食べる子、逃げ出す子、泣き出す子と様々な反応が現れる。無理強いせず、それぞれの子供の自発にまかせる。》
どうだった？どんな歯ごたえがした？どんな味がした？
食べられなかった人、なぜ食べられなかったのだろう？
食べられた人、どうやって食べられたの？
《それぞれの感想をのべてもらう》
みんな日本でも虫を食べるって知ってましたか。特にイナゴはとても美味しいとされています。だから、アボリジニの人たちがイモムシを食べることも、そんなに変わったことではないのかもしれません。

【体験タイム③――デザート】
次はデザートです。
デザートはもちろん、蜜蟻です。しかし、これも日本では見つからなかったので、代わり

にオーストラリアのチョコレートを食べましょう。蜜蟻のように丸くて甘いチョコレートです。ひとり二つずつあるので、蜜蟻だと思って食べてくださいね。

《チョコレートを食べる》

みんなが満足し、落ち着いた所で学習活動を終わる。